

SWOT分析について

■ SWOT分析とは？

SWOTとは、強み(Strength)、弱み(Weakness)、機会(Opportunity)、脅威(Threat)の頭文字をとったものであり、SWOT分析は、企業経営のビジョンや戦略を設定するための方法論として、多くの民間企業において活用されてきました。

組織の経営という観点からみれば、企業経営も行政経営も、ビジョンやそれを実現するための戦略を設定し、戦略的なマネジメントを展開する点では同じであると考えることができます。SWOT分析についても、民間企業の経営戦略設定の方法論として生まれたものではありませんが、少し工夫を加えることで、自治体マネジメントへの適用を図ることができると考えられます。

■ SWOT分析実施の目的

江南市では、一昨年より、全庁的に「構造改革」に取り組んできました。これまでの約1年半は、新しい行政経営(NPM)を導入していくための「環境整備」に力点が置かれてきましたが、今後は、いよいよ新しい行政経営(NPM)を構築し実践していくステージへと入っていきます。

今回策定する「江南市戦略計画」は、そのための第一歩であると同時に、最も重要な作業(プロセス)になるものと考えています。別の言い方をすれば、「江南市戦略計画」を策定するプロセスを通じて、江南市が「経営のできる組織」になることが、最大の狙いとなります。「経営のできる組織」とは、組織のビジョンや戦略を設定し、それを実現することのできる組織ということができます。こういった「戦略マネジメント」を実現していくために、今回、「江南市戦略計画」の策定においては、民間企業で使われるSWOT分析の手法を本格的に取り入れていくこととしました。

■ SWOT分析と基本構想の関係

基本構想の以下の項目を策定するにあたって、SWOT分析を活用しています。

- ・ 江南市をとりまく社会経済環境の変化
- ・ 江南市の概要と資源の特徴
- ・ 将来像
- ・ 市民と市役所の役割
- ・ 地域経営のあり方
- ・ 行政経営のあり方

■市全体のSWOT分析のフォーマット

SWOT分析では、次頁のフォーマット（SWOTマトリクス）を用いました。

【外部環境分析】

○社会潮流とニーズ分析の2段階で分析

「社会潮流」：社会経済の動向や変化の方向性を表したもの

「ニーズ分析」：社会潮流から生まれる、江南市にとっての具体的なニーズの変化や、市の果たすべき役割の変化を分析したもの（下記のとおり、SWOT分析では、この情報が重要となる）

○ニーズ・市の役割の増大／減少で上下に振り分け

上記の「ニーズ分析」において、ニーズや市の役割が増大の方向にあるか、減少の方向にあるか、その変化の方向性によって、「機会」と捉えるか「脅威」と捉えるかを分類する（マトリクスの上下に振り分ける）

○中部圏や日本全体からみた「江南市の役割」があれば、その視点も取り入れる

【内部環境分析】

○強みと弱みは、人的資源、物的資源、財務的資源、情報資源の4つの視点により整理

○強みと弱みは、市役所の経営資源と、地域全体の経営資源の2つの視点を意識して整理

【4つの戦略】

○推進戦略：強みを生かして、成長機会に対応して、地域価値や市民満足度を高める戦略

○改善戦略：弱みを補い改善することにより、成長機会を生かし、地域価値や市民満足度を高める戦略

○縮小（回避）戦略：成長や地域価値を高めることにはつながりにくいですが、強みがあるので、状況をみながら縮小・回避する戦略

○撤退戦略：成長や地域価値を高めることにはつながりにくい上、それに対応するには弱みもあるため、撤退する戦略

■分析にあたって活用する情報

分析にあたっては、前頁にもあるように、以下の情報を活用することとします。

○ 江南市の現況

- ・ 江南市の現況や過去からの推移。行政サービスの量・水準や、まちや市民生活の状態を数値で整理したもの。
- ・ 内部環境の情報が主だが、一部、外部環境（ニーズ）の情報も混在している。

○ 社会潮流の情報

- ・ 社会や経済の動向。10年位先を見据えた、予測や推計、国の政策目標など、社会全体の一般的な潮流を整理したもの。
- ・ 外部環境分析に活用。

○ 市民意向調査の情報

- ・ 平成18年4月1日～4月21日に実施した市民意向調査の情報。
- ・ 各分野の成果項目について、「現状の充足度」と「今後の重要度」を問う設問からは、市民の考える成果項目の優先度（ニーズ）がうかがえる。
- ・ 江南市のあり方について問う設問からは、市の進むべき方向性や市に求める役割などが見えてくる。

○ これまでの取り組みから得られる情報（内部マネジメント情報）

- ・ 「H18・19戦略計画」の情報については、SWOT分析において活用できる。「ミドルアップ」の役割を果たす情報として活用していく。